

宍道湖刺網漁業実態調査

(宍道湖・中海水産振興対策検討調査事業)

藤川裕司

1. 研究目的

宍道湖における刺網許可数は 659 を数え、重要な漁業種と考えられるが、その漁獲統計は不明である。これは、宍道湖漁協では漁獲物を漁協を通じて販売する仕組みが確立しておらず、各経営体が個々に業者へ出荷するためである。

そこで、刺網漁業実態を把握するため、平成 12 年度より毎年標本船野帳調査および出漁日数に関するアンケート調査を継続実施し、今年度は以下の知見を得たので報告する。

③使用した漁具の長さと言った日数

平成 年 月 日

①漁業種類 (○をする)

わかさぎ刺網 しらうお刺網 すずき・このしろ刺網
ぼら刺網 こい・ふな刺網 雑魚刺網

_____ 刺網(長さ m、 晩)

_____ 刺網(長さ m、 晩)

②漁獲物の種類、量及び価格 (銘柄があれば銘柄別に記入する)

魚 種	漁獲量 (kg)	価 格 (合 計)

スズキ延縄 (釣針の数 ヶ)

④操業位置 (地図に印を付ける)

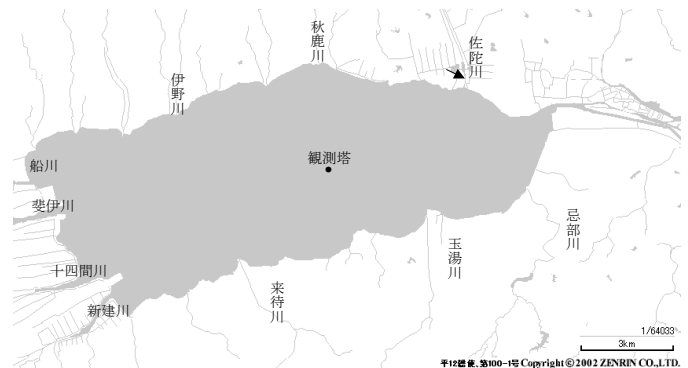


図 1 標本船野帳

(平成 15 年 12 月以降の様式)

2. 研究方法

刺網許可保有 659 経営体より抽出した 31 経営体へ図 1 に示した標本船野帳を配布し、操業網種、漁獲量、漁獲金額等の記帳を依頼した。なお、野帳依頼経営体数は当初は 24 であったが、平成 15 年に 2 経営体が辞退し、平成 15 年 11 月に新たに 9 経営体が加わった。これら 31 経営体の刺網種別許可数を表 1 に示した。平成 16 年 6 月に図 2 に示したアンケートを、刺網操業許可保有 659 経営体のうち標本船野帳

記入 22 経営体（新たに依頼した 9 経営体にも 4～10 月分の記載を依頼）を除く 637 経営体へ送付し、平成 15 年 4 月～16 年 3 月の月別出漁日数の記入を依頼した。

宍道湖における刺網総漁獲量は、アンケート回収経営体による月別操業日数と標本船野帳記入 31 経営体（平成 15 年 4～10 月は 22 経営体）による操業日数の比を、標本船野帳記入 31 経営体（平成 15 年 4～10 月は 22 経営体）の漁獲量に乗じて推定した。

表 1 宍道湖漁協刺網野帳記入 31 経営体の網種別許可数

ワカサギ 刺網	シラウオ 刺網	スズキ・コノシロ 刺網	ボラ 刺網	コイ・フナ 刺網	雑魚 刺網
26	28	24	0	25	13

下記の各刺網について、あなたが出漁された日数について、おおよそで結構
ですので、御記入下さい。

- ・ 出漁日数 0 の場合は何も記入しないで下さい。
- ・ すべての刺網について全く出漁されなかった場合も、この用紙は返送して下さい。

	わかさぎ 刺網	しらうお 刺網	すずき このしろ 刺網	ぼら 刺網	こい ふな 刺網	雑魚 刺網
平成 15 年 4 月						
5 月						
6 月						
7 月						
8 月						
9 月						
10 月						
11 月						
12 月						
平成 16 年 1 月						
2 月						
3 月						

(住所)
(氏名)

図 2 アンケートの様式

3. 研究結果と考察

標本船野帳記入31経営体による、平成15年4月から16年3月の刺網月別出漁日数を表2に示した。また、その魚種別漁獲量を表3に示した。

アンケートが回収された経営体のうち実際に刺網に着業した経営体を表4に示した。637経営体のうち、アンケートが回収されたのは333経営体であった。この333経営体のうち、実際に刺網に着業したのは141経営体であった(表4)。アンケートが回収された333経営体の平成15年4月から16年3月の月別出漁日数を表5に示した。出漁日数はコイ、フナ刺網がもっとも多く、次いでシラウオ刺網、スズキ・コノシロ刺網の順であった。ワカサギは、数年来の不漁を反映して出漁日数は少なかった。これらの傾向は、平成12年以降同様であった。

表2 宍道湖漁協標本船野帳記入31経営体による平成15年4月から16年3月の刺網月別出漁日数

	ワカサギ刺網	シラウオ刺網	スズキ・コノシロ刺網	コイ・フナ刺網	雑魚刺網
平成15年4月	0	63	6	1	0
5月	0	0	13	0	0
6月	0	0	0	0	0
7月	0	0	5	0	0
8月	0	0	0	0	0
9月	0	0	3	0	0
10月	1	0	30	0	1
11月	10	2	30	55	0
12月	44	20	12	143	22
平成16年1月	39	217	0	85	3
2月	33	264	0	58	0
3月	3	349	0	18	0
計	130	915	99	360	26

表3 宍道湖漁協標本船野帳記入31経営体による平成15年4月から16年3月の刺網月別漁獲量

	(kg)						
	ワカサギ刺網	シラウオ刺網	スズキ・コノシロ刺網		コイ・フナ刺網		雑魚刺網
	ワカサギ	シラウオ	スズキ*	コノシロ	コイ	フナ	マハゼ
平成15年4月	0	221	60	0	0	20	0
5月	0	0	206	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	47	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	46	0	0	0
10月	0	0	894	0	0	0	0
11月	3	1	211	0	34	1,217	0
12月	34	37	104	15	81	3,501	171
平成16年1月	87	2,667	0	0	29	2,009	13
2月	70	5,791	0	0	7	1,298	0
3月	2	9,171	0	0	0	285	0
計	196	17,888	1,522	61	150	8,330	184

*中ハン、セイゴ含む

表4 平成15年4月から16年3月におけるアンケートが回収された
経営体のうちで実際に刺網に着業した経営体

		松江	宍道	斐川	平田	玉湯	出雲	鹿島	不明	合計
回収数		121	35	76	81	16	3	0	1	333
着 業 者 数	ワカサギ刺網	10	2	20	10	1	0	0	0	43
	シラウオ刺網	28	8	9	14	4	0	0	0	63
	スズキ・コノシロ刺網	16	3	8	7	3	0	0	0	37
	ボラ刺網	0	0	1	0	0	0	0	0	1
	コイ・フナ刺網	39	10	29	24	3	0	0	0	105
	雑魚刺網	5	0	0	1	1	0	0	0	7
	いずれかの刺網 に着業した経営 体	54	16	35	31	5	0	0	0	141

表5 宍道湖漁協アンケート回収333経営体の平成15年4月から16年3月の
刺網月別出漁日数

	ワカサギ刺網	シラウオ刺網	スズキ・コノシロ刺網	ボラ刺網	コイ・フナ刺網	雑魚刺網
平成15年4月	2	150	26	0	41	2
5月	11	15	68	0	13	0
6月	0	0	51	0	1	0
7月	0	0	21	1	0	0
8月	0	0	27	1	1	0
9月	0	0	50	0	1	0
10月	16	0	96	0	26	0
11月	28	7	51	0	140	8
12月	104	66	17	0	494	24
平成16年1月	136	315	4	0	455	5
2月	82	430	4	0	362	2
3月	18	469	13	0	162	2
計	397	1,452	428	2	1,696	43

表6 宍道湖漁協アンケート回収333経営体の平成15年4月から16年3月の
刺網月別推定漁獲量

	ワカサギ刺網		スズキ・コノシロ刺網		コイ・フナ刺網		雑魚刺網
	ワカサギ	シラウオ	スズキ	コノシロ	コイ	フナ	マハゼ
平成15年4月	0	527	260	0	0	820	0
5月	0	0	1,077	0	0	0	0
6月	0	0	0	0	0	0	0
7月	0	0	198	0	0	0	0
8月	0	0	0	0	0	0	0
9月	0	0	0	0	0	0	0
10月	0	0	2,860	0	0	0	0
11月	10	2	359	0	86.29	3,097	0
12月	79.89	121	147	0	280	12,095	187
平成16年1月	305	3,871	0	0	155	10,753	21
2月	174	9,433	0	0	41	8,103	0
3月	10	12,324	0	0	0	2,562	0
計	578	26,278	4,901	0	562	37,431	208

アンケート回収 333 経営体による出漁日数（表 5）と野帳記入 31 経営体による出漁日数（表 2）の比を、野帳記入 31 経営体による魚種別漁獲量（表 3）に乗じて、アンケート回収 333 経営体による魚種別漁獲量を推定した（表 6）。コノシロは、聞き取りよりアンケート回収 333 経営体中でコノシロを漁獲している経営体はないと考えられたので 0 とした（表 6）。次いで、アンケート回収 333 経営体による魚種別推定漁獲量（表 6）に野帳記入 31 経営体の魚種別漁獲量（表 3）を加えた（表 7）。宍道湖における刺網魚種別漁獲量は、フナとシラウオが多かった（表 7）。フナは平成 13 年度は、107 トン漁獲されたが、平成 14 年度では 47 トンに減少し、平成 15 年度も同様に低迷している。シラウオは、平成 14 年度は 19 トンであったが、平成 15 年度は 44 トンと豊漁であった。

宍道湖定置網による平成 14 年 4 月から 15 年 3 月の魚種別漁獲量を表 8 に示した。刺網魚種別漁獲量（表 7）と定置網魚種別漁獲量（表 8）を比較したところ、定置網に比較して刺網がフナでは 15 倍、シラウオでは 2.2 倍漁獲していることが認められた。なお、アンケート未回収 304 経営体の漁獲量を考慮すると、この比はさらに大きくなると考えられる。平成 12～14 年度にも同様な現象が認められており、刺網は宍道湖において魚類資源を対象とする、最も重要な漁業種であると考えられる。

表7 アンケート回収333刺網経営体と野帳記帳31刺網経営体による平成15年4月から16年3月の刺網月別漁獲量 (kg)

	ワカサギ刺網		シラウオ刺網		スズキ・コノシロ刺網		コイ・フナ刺網		マハゼ
	ワカサギ	シラウオ	スズキ	コノシロ	コイ	フナ	マハゼ		
平成15年4月	0	748	319	0	0	840	0		
5月	0	0	1,283	0	0	0	0		
6月	0	0	0	0	0	0	0		
7月	0	0	245	0	0	0	0		
8月	0	0	0	0	0	0	0		
9月	0	0	0	46	0	0	0		
10月	0	0	3,754	0	0	0	0		
11月	13	3	570	0	120	4,314	0		
12月	114	157	251	15	361	15,597	358		
平成16年1月	392	6,538	0	0	184	12,762	34		
2月	244	15,224	0	0	47	9,401	0		
3月	11	21,495	0	0	0	2,847	0		
計	774	44,166	6,423	61	712	45,760	392		

表8 宍道湖 定置網による平成15年4月から16年3月の月別漁獲 (kg)

	ワカサギ	シラウオ	スズキ	コイ	フナ	マハゼ
平成15年4月	-	-	-	-	-	-
5月	-	-	-	-	-	-
6月	-	-	-	-	-	-
7月	-	-	-	-	-	-
8月	-	-	-	-	-	-
9月	-	-	706	0	0	2
10月	9.3	-	2710	6	66	6
11月	7	1766	6287	7	224	20.3
12月	8	4,673	6,057	2	729	1,765
平成16年1月		3,720	9.0	39	941	297
2月		5,058	18.7	1	610	18
3月		4,671	187	0	428	0
計	24	19,888	15,975	55	2,998	2,108

アンケート回収 333 刺網経営体と野帳記入 31 刺網経営体および定置網による平成 15 年 4 月～16 年 3 月の魚種別推定漁獲量を表 9 示した。平成 15 年度は、漁獲量はシラウオが 64,054kg ともっとも多く、次いでフナの 45,758kg であった。アンケート未回収 304 経営体の 1 経営体当たり出漁日数は、アンケート回収 333 経営体と同じであると仮定し、アンケート送付 637 刺網経営体と野帳記入 31 刺網経営体および定置網による平成 15 年 4 月～16 年 3 月の魚種別推定漁獲量を表 10 に示した。現実的には、1 経営体当たり出漁日数は、アンケート記入経営体よりアンケート未回収経営体の方が低い可能性が高いので、宍道湖におけるワカサギ、シラウオ、スズキ、コイ、フナ刺網と定置網による漁獲量は 134,000～202,000kg の範囲内と推定される。

表9 アンケート回収333刺網経営体と野帳記帳31刺網経営体および定置網による平成15年4月～16年3月の魚種別推定漁獲量

魚種名	ワカサギ	シラウオ	スズキ	コイ	フナ	計
漁獲量 (kg)	944	64,054	22,398	767	45,758	133,921

表10 アンケート送付637刺網経営体と野帳記帳31刺網経営体および定置網による平成15年4月～16年3月の魚種別推定漁獲量

魚種名	ワカサギ	シラウオ	スズキ	コイ	フナ	計
漁獲量 (kg)	1,486	88,696	26,881	1,293	83,787	202,143

4. 研究成果

- 調査で得られた結果は、宍道湖・中海水産振興対策検討委員会、内水面調査研究協議会で報告された。